

フォーラム（コデザインWS）の開催概要

- 日時：2018年8月28日（火）10時～17時20分
- 場所：法政大学 市ヶ谷キャンパス外濠校舎 2～3階
- 参加者：国（文科省3名、環境省6名、農水省5名、国交省1名、気象庁4名）、全国の自治体行政（環境部局26名、防災・河川部局3名）と地方環境研究所3名、コンサルタント11名など + SI-CATメンバー
（PD1名、技術開発機関14名、モデル・ニーズ自治体研究機関12名、モデル・ニーズ自治体行政環境部局3名、農政部局1名、農業試験場4名、防災・河川部局1名、社会実装機関7名、ファシリテーター6名、事務局15名）ほか約150名
- 目的：気候科学技術・データの自治体行政への実装化プロセスの検証と課題を明らかにする
- アジェンダ
 - 前半は講演形式
 - SI-CAT技術開発機関のシーズの紹介
 - 各主体の取り組みの紹介（環境省、国内外の先進自治体）
 - SI-CATでの社会実装に向けた動き
 - 後半はテーマ別（適応計画・暑熱・防災・農業）の小グループに分かれてワークショップ形式

詳細アジェンダ

- ご挨拶（木村PD），趣旨説明（田中）[10]
- SI-CATでのシーズの概略
 - ✓ 近未来予測とダウンスケーリングとは？（JAMSTEC）[20]
 - ✓ 気候変動の影響評価技術の開発（NIES）[20]
- 各主体の取り組みの紹介
 - ✓ 気候変動適応法と地域適応コンソーシアム事業について（環境省）[20]
 - ✓ 大阪市における暑熱分野での適応策の社会実装の事例について（大阪市）[15]
 - ✓ 海外自治体の適応計画事例について（イクレイ日本）[15]
- SI-CATでの防災/農業/暑熱のシーズとニーズの社会実装に向けた動き（法政大）[20]
- 総合討論[30]
- 分科会（適応計画全般1/2/3/農業/防災/暑熱）に分かれてワークショップ [160]
 - ✓ モデル自治体等による社会実装の経験・事例紹介、現在の影響・ニーズとシーズの相互理解、仮想的な適応策(計画)案の検討等々について検討する
 - ✓ グループ：各分科会とも行政職員3～6名、地方県境研究所やコンサルタントなど数名ずつと技術開発機関3～6名ずつ程度（残りの方は周囲から傍聴）
 - ✓ ファシリテーター：木村氏/稲葉氏/土井氏/小杉氏/増原氏/吉川氏
- ワークショップ結果の共有と総合討論[50]
- 閉会（田中）[5]